



古絵葉書や古写真が語る 故郷の歴史や文化を追い求めて！

郷土史家 **中村英夫**さん(67歳)出石町材木



「が歴史や文化の裏付けです」と話します。

講演では、数百枚もの古写真などをスクリーンに連写して、聴衆者の視覚に訴え、記憶に残す方法を用います。

講演の主なテーマは20種類あり、延べ15時間に乗っています。

現在、資料収集の傍ら、各地域のコミュニティ活動にも積極的に参加し、とりわけ敬老会や老人会では、懐かしい写真が呼び水となり、昔話に花が咲きます。そこには、新たな歴史発見となる証言があるそうです。

北但大震災90年メモリアル事業で講演いただいた中村英夫さん。100年にも満たない故郷の歴史や文化の伝承が、世代交代や混住化などで、途切れようとしていることを痛感し、全農兵庫を退職後、故郷の出石に帰り、後世へ伝える活動を開始しました。

全国の古本屋、古書展、骨董市などで収集した明治から昭和前半までの絵葉書・写真は、実に5千枚以上。

「写真一枚一枚は、何も語ってこない。関連した数多くの資料を見比べることで、ストーリーが生まれます。それ

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



柴燈大護摩供養の様子

鼻かけ地蔵尊祭 一つの願いを煙にのせて

6月7日、城崎地域の楽々浦区で、第39回鼻かけ地蔵尊祭が行われ、約300人がお参りました。

鼻かけ地蔵は、但馬六十六地蔵尊の五十八番目の札所で「日本昔ばなし」にも登場し、願い事一つだけかなえてくれると伝えられています。

柴燈大護摩供養では、参拝者の願いを込めた護摩木がたかれました。

円山川の漂着ごみ現状調査で縁がある大阪商業大学(東大阪市)の学生が、ボランティアとして参加。3年生の永瀬倅大さんは「とても楽しい!地元の方と協力してお祭りができることは、とても貴重な経験。来年も参加できたらいいと思う」と話しました。

酒米「フクノハナ」お田植え式 全国で出石だけの酒米作り

5月22日、出石町袴狭の田んぼで、酒米「フクノハナ」のお田植え式が開催されました。農機具や酒造メーカーなどの関係者が見守る中、小野小学校の児童ら約20人が田植えを体験しました。

かつては全国各地で栽培されていたフクノハナ。麴にすることが難しいことから次第に敬遠され、現在では全国で唯一、出石地域だけで栽培が継続されています。フクノハナにこだわる酒造メーカーの要請を受け、今年は生産量を3割増やします。

出石フクノハナ生産部会長の吉田準一さんは「フクノハナの栽培に誇りを持っている。子どもたちにも興味を持ってもらえれば」と話しました。



フクノハナの田植えをする小学生ら